

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は軟調な推移が継続か

[ 6月24日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		6月17日～6月21日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.48	108.72(17)	107.05(21)	107.30	-1.26
ユーロ・ドル	1.1213	1.1317(20)	1.1181(18)	1.1285	+0.0077

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,258.64	+141.75	日本10年債利回り	-0.163	-0.034
ダウ平均株価	26,753.17	+663.56	米10年債利回り	2.028	-0.052

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 24日 日本4月景気動向指数改定値  
独6月ifo景況感指数
- 25日 NZ5月貿易収支  
日銀金融政策決定会合議事要旨(4月24・25日分)  
カナダ4月卸売売上高  
米4月住宅価格指数、米4月S&Pケースシャー住宅価格指数  
米5月新築住宅販売件数、米6月消費者信頼感指数
- 26日 NZ準備銀行(RBNZ)政策金利  
米MBA住宅ローン申請件数  
米5月耐久財受注
- 27日 日本5月小売業販売額  
独5月小売売上高指数  
独6月消費者物価指数  
米第1四半期国内総生産(GDP)確報値  
米新規失業保険申請件数
- 28日 日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率  
日本5月鉱工業生産指数  
スイス6月KOF先行指数  
英第1四半期国内総生産(GDP)確報値  
ユーロ圏6月消費者物価指数  
米5月個人所得・支出  
カナダ5月鉱工業製品価格  
米6月シカゴ購買部協会景気指数  
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数
- 30日 中国6月製造業購買担当景気指数

【前回のレビュー】地政学的リスク、米国での利下げ期待の高まりや米長期金利の低下などから、ドル円は上値を伸ばしにくい状況となり、108円台を中心にもみ合いが続くとした。ユーロ圏では景気減速への警戒感、イタリアの財政問題などから、ユーロドルは上値の重い展開になるとした。

【FOMCを受けて、米年内利下げ観測高まる】

18日の講演で欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁は、景気や物価が改善しなければ刺激策が必要になると、追加緩和の意向を表明した。さらにトランプ米大統領は18日に中国の習近平国家主席と電話で会談して、20カ国・地域首脳会議(G20大阪サ

ミット)で首脳会談を行う意向を表明した。米中対立への警戒感が後退したことや各国の追加緩和策への期待感から、18日のNYダウは353ドル高となるなど、大幅高となるなど、市場のセンチメントが好転している。

18～19日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)では、政策金利は大方の予想通り据え置きとなった。声明では景気判断を下方修正して、「我慢強くなれる」の表現が削除された。FOMCメンバーの金利見通し(ドットプロット)では、17人のメンバーのうち7人が年末までに0.50%の利下げを、ひとりが0.25%の利下げを見込んでいる。前回の3月時点では利下げを見込む向きはゼロであり、それだけ景気見通しに慎重になり、対応が必要と考えるメンバーが増えたことがうかがえる。

米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は記者会見で、経済の不確実性が高まっていることを踏まえ、景気拡大を維持するために適切に行動するとの意向を示した。こうした議長発言から市場では利下げ期待が高まった。今後の経済指標の結果に左右されるものの、17名のFOMCメンバーのうち、8名が年内の利下げを想定しており、7月のFOMCでは利下げに動くとの見方が広がっている。

20日の東京市場では、米国の利下げ期待から米長期金利が急速に低下した。米10年物国債利回りは一時2%を割り込み、1.97%台まで低下した。米長期金利の低下を受けて、ドル円は108円を割り込み、107円台半ばまで下落した。それまでドル円はおおむね108円台で推移して、108円割れは一時的な動きにとどまっていたが、米国の利下げ観測が高まると、値を崩すこととなった。20日の海外市場でドル円は107円台前半まで下落して、21日の東京市場でも上値の重い動きとなっている。

19～20日の日銀金融政策決定会合では、金融政策に変更はなかった。豪中銀(RBA)、ECB、FRBが緩和姿勢を打ち出しているものの、日銀には打てる手立てが乏しいという状況のようだ。

米国の無人偵察機撃墜を受けて、トランプ米大統領がイランに対する攻撃を一時承認したが、その数時間後に撤回したと報じられるなど、イラン情勢への警戒感が高まりを見せている。

FRBによる利下げ観測の高まり、イラン情勢への警戒感からドル円は上値の重い展開が見込まれる。米10年物国債利回りは低下傾向にあり、円買いにつながりやすく、株高による円売りは限定的となっている。このため、ドル円は軟調な推移が継続することとなる。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、24日に日本4月景気動向指数改定値、25日に日銀金融政策決定会合議事要旨(4月24・25日分)、米4月住宅価格指数、米4月S&Pケースシラー住宅価格指数、米5月新築住宅販売件数、米6月消費者信頼感指数、26日に米MBA住宅ローン申請件数、米5月耐久財受注、27日に日本5月小売業販売額、米第1四半期国内総生産(GDP)確報値、米新規失業保険申請件数、28日に日本5月雇用統計、日本5月有効求人倍率、日本5月鉱工業生産指数、米5月個人所得・支出、米6月シカゴ購買部協会景気指数、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数、20カ国・地域(G20)首脳会議(大阪サミット、29日まで)などがある。

【ドラギ総裁は追加緩和を示唆】

18日の講演で、ECBのドラギ総裁は、「景気や物価の見通しが改善しなければ追加緩和が必要になる」「追加利下げはECB政策手段の一部」「量的緩和はまだかなりの余地ある」など追加緩和を示唆ととらえられる内容の発言をした。この発言を受けて、ユーロドルは1.12ドル割れの水準まで下落した。

その後は米国の利下げ観測でドルが売られて、ユーロドルは上昇に転じており、21日には1.13ドル近辺まで戻している。なお、ドル安を背景にドル建て金現物価格は1400ドルを突破している。ドルの強さを示すドルインデックスは18日の97台後半から95台半ばまで下落している。ユーロドルはECBの緩和姿勢が圧迫要因となる

ものの、それ以上にドルの弱さの影響を受けて、堅調な推移となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1. 1 2 0 0～1. 1 4 0 0ドル。

【豪中銀（R B A）も追加利下げの可能性】

18日の日本時間の午前10時30分に公表された6月4日分のR B A理事会議事録で、「今後さらなる緩和の可能性が大い」との文言があったことから、追加利下げの思惑が広がり、豪ドルは売りが優勢となった。

また、R B Aのロウ総裁は、20日の講演で、「政策金利がより下がるという見通しは非現実的なものではない」と利下げに肯定的な見解を示した。この発言を受けて、R B Aの7月の利下げ確率はそれまでの50%前後から80%前後まで上昇している。利下げ見通しの高まりは豪ドルにとって圧迫要因となる。ただ、ユーロドルと同様にドルの弱さから豪ドル/ドルは堅調な動きを見せており、下げは限定的となりそうだ。豪ドル/ドルの目先の予想レンジは、0. 6 8 5 0～0. 7 0 0 0ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日に独6月I F O景況感指数、25日にN Z 5月貿易収支、カナダ4月卸売上高、26日にN Z 準備銀行（R B N Z）政策金利、27日に独5月小売売上高指数、独6月消費者物価指数、28日にスイス6月K O F先行指数、英第1四半期国内総生産（G D P）確報値、ユーロ圏6月消費者物価指数、カナダ5月鉱工業製品価格、30日に中国6月製造業購買担当景気指数などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。